

財政計画と予算の乖離の理由は

震災後の社会情勢変化へ対応



阿部 一男 議員
(平和環境市民クラブ)

Q 花巻市総合計画財政計画では、平成24年度予算規模は417億円であるが、新年度予算は43

5億円と増加。うち地方債は29億円の計画が36億円となった。計画と新予算の乖離の理由を伺う。
A (政策推進部長) 地方交付税と臨時財政対策債の計上の違いについては、一般財源の総額は11億円ほど多く確保されており、県支出金については、緊

急雇用創出事業の拡大に伴い整合しない部分となっている。
TPPと農業・医療
Q TPPのモデルとなる米韓FTAでは、①投資家対国家紛争手続き、②規制を緩和すると元に戻せない条項など交渉国

を拘束する内容がある。市は、TPPから農業・医療など市民生活を守る立場を明らかにすべきことを伺う。
A (農林水産部長) TPPへの対策がないままでの参加は、農業や医療に影響があると予想され容認できないが、現段階では国としての交渉内容やそれに対する対策内容も示されておらず、判断ができない状況である。



TPP問題など不安をかかえながら農作業がスタート

スポーツ施設の管理は適切か

地域スポーツクラブ結成を支援



板垣 武美 議員
(地域政党いわて)

Q 市長は、総合体育館アネックスの建設、スポーツコンベンションビュローの組織化など、

スポーツによる地域経済への波及効果を期待する施策に取り組んでいるがこのことよって市の中心部以外のスポーツ施設の維持管理などがおおそかになっていないか。地域におけるスポーツ環境整備の基本方針について伺う。

A (まちづくり部長) 施設の利用状況、活用内容等を調査し、より効果的な活用が図られるようスポーツ施設の総合的な整備活用計画の策定および特徴的なスポーツ施設の整備を図る。また、生涯スポーツ社会を迎え、いつでも、どこでも、だれでも、

いつまでもスポーツを身近に楽しむことができるよう、住民主体の自主的な総合型地域スポーツクラブの結成を支援するなど、スポーツ環境整備の推進を図っていく。ほかに、平成28年いわて国体の開催に向けた施設整備を図るとともに、大規模スポーツ大会等の開催にも利用するなど、スポーツによる交流人口の増加に努める。



フィールドの芝生管理作業(スポーツキャンプむら)

花巻市総合計画について

計画期間10年を2層構造で策定



鎌田 芳雄 議員
(花巻クラブ)

Q 新たな花巻市総合計画を策定するに当たり、基本構想・方針と素案作成について伺う。

A (市長) 計画期間10年間を「まちづくり長期ビジョン」として3期に分け、期別に目標値を設定し見直しを行いながら管理していくと考える。さらに「まちづくり中期プラン」を作り、この2層構造で市民会議に諮りながら進んでいきたいと

考えている。
中学生の武道必修化
Q 平成24年度から中学校で武道、ダンスが必修化されるが、選択される種類と期待される効果について伺う。
A (教育長) 武道は柔道と剣道から選択。ダンス

は創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの中から選択することから、楽しさや喜びを味わい、相手を尊重する伝統的な考え方を理解し、健康・安全に気を配ることができるようになる。また、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を行う中で、自己を表現しお互いの良さを認め合おうとする態度を育てる効果が期待される。



心身とも豊かな子どもを目指して武道の必修化が始まった

人・農地プラン策定計画は

8月ごろにプランを最終決定



平賀 守 議員
(明和会)

Q 国では、平成24年の農地施策として、「人・農地プラン(地域農業マスタープラン)」の策定を掲

げているが、今後のスケジュールはどうなっているのか伺う。
A (農林水産部長) このプランは、担い手を地域の中心経営体に位置づけ、いかに農地を効率的に集積していくかを示す設計図であり、農業者等が中心となって原案を作成し、

市が決定するものである。スケジュールについては、2月に農協主催の冬期座談会で概要説明資料の配布、4月には農家組合役員への説明会、その後、プランの詳細説明と担い手への位置づけを希望する農業者を募る資料を各農家へ配布。地域の合意形

成を経た上で原案を作成し、最終的に8月ごろに決定する予定である。
花巻球場の整備計画
Q 花巻球場は供用開始以来24年経過して老朽化しているが、整備計画はどうなっているのか伺う。
A (市長) 来年度事業として、グラウンドの排水工事や土の入れ替え、外野の芝張り工事を行うとともに、スコアボードの改修を実施していく。



スコアボード等の改修が行われる花巻球場